

『研究活動デザイナー出合いと 対話は何を変えるか』

アクラス日本語サロン<著者との対話>

11月22日(木)18:30~20:30

アクラス日本語教育研究所

細川英雄

(早稲田大学大学院日本語教育研究科)

【著者からのメッセージ】

- あなたは、研究という行為を特別なものとして、日常生活の中での考えることや表現することと別のものとして扱っていませんか。
 - この本では、研究を一つの活動と捉え、思考と表現の循環を創りだす出会いと対話について、自分誌という手法を用いながら語ってみました。
 - このアイデアをどのように教育実践に生かすか、ともに考えてみたいと思います。
-

本日の構成

- 研究活動とは何かー出会いと対話
 - 出会いと対話からテーマ発見へ
 - あるテーマ発見の物語
 - 研究活動のもたらすもの
-

研究活動とは何か—出会いと対話

- 研究と研究活動—固定的な「研究」イメージからの脱却
 - さまざまな出会いと対話—それぞれの「私」の物語
 - 出会いと対話による「私」のテーマの発見
-

出会いと対話からテーマ発見へ

- 留学生（1998年度から「考えるための日本語」教室版・インターネット版）
 - 高校生（日本語表現総合2000年度本庄高等学院、文章表現2004年度石神井高等学院）
 - 大学生（2004年度から「書くこと・考えること」オンデマンド140名）
 - 社会人（早稲田大学エクステンションセンター）
 - 大学院生（ゼミ→修士論文・博士論文）
-

あるテーマ発見の物語

—キム・ヨンナムさんの軌跡

- 留学生から大学院生へ—人とつながる日本語学習の模索
 - 日本語学習者から日本語教師へ—ことばによってつながる教室活動へ
 - 日本語教育と日本語教育研究—「人と人の間にことばが生まれるとき—教師自身による実践研究の意義」 「早稲田日本語教育学」7号、2010年2月
-

研究活動のもたらすもの(1)

- 人はだれでもテーマを持っている。
 - そのテーマを意識化・自覚することの重要性
 - 過去・現在・未来を結ぶ一本の見えない糸をさがす試み
 - テーマは変わる、動態性と可変性
-

研究活動のもたらすもの(2)

- 年少期－自己意識(自我)の芽生えとその自覚化
 - 思春期・青年期－生きるテーマの発見と職業選択へ、したいこと・できること
 - 熟年期・老年期－人生の内省・省察、生と死に向き合う
-

関連文献

- 牲川波都季・細川英雄『わたしを語ることばを求めてー表現することへの希望』三省堂 2004
 - 細川英雄・武一美編『初級から始まる活動型クラスー学習者がつくる学び』スリーエーネットワーク、2011
 - 細川英雄『研究活動デザイナーー出会いと対話は何を変えるか』東京図書 2012
-

『研究活動デザイン

ー出合いと対話は何を変えるか』

- ご意見、ご感想、ご質問をお待ちします。
- メールマガジン「ルビュ言語文化教育」
- 毎週金曜日発行(購読無料)
- <http://www.gbki.org/>

担当: 細川英雄

早稲田大学大学院日本語教育研究科
